

## 令和3年度 特別の教育課程の実施状況等について

茨城県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
鹿嶋市立豊津小学校（外 11 校）	鹿嶋市教育委員会	公立

## 1. 特別の教育課程を編成・実施している学校及び自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の 公表ウェブサイト名・URL 等	学校関係者評価結果の 公表ウェブサイト名・URL 等
鹿嶋市立豊津小学校	<a href="http://www.sopia.or.jp/toyotu/wp/">http://www.sopia.or.jp/toyotu/wp/</a>	<a href="http://www.sopia.or.jp/toyotu/wp/">http://www.sopia.or.jp/toyotu/wp/</a>

## 2. 特別の教育課程の内容

## (1) 特別の教育課程の概要

これからの時代において必要とされるグローバルな視野を持った人材を早期から育成するため、小学校第1学年及び第2学年の生活科20時間を外国語活動に替えて実施する。

## (2) 学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

本市は常陸国一の宮鹿島神宮の門前町として栄え、発展してきた。また、2002年にはFIFAワールドカップの会場地となり、2020年には東京オリンピックサッカー競技が開催された。歴史的伝統とスポーツによる活力あるまちであり、「子どもが元気 香る歴史とスポーツで紡ぐまち 鹿嶋」を本市総合計画における将来像に掲げている。世界の人々とのコミュニケーションをとおして、本市の魅力を世界に発信していくことができるグローバルな人材育成をより一層推進することが、本市の発展と教育活動の充実に必要であると考え、教育課程の特別措置申請を行うこととした。

## (3) 特例の適用開始日

2007年4月

2018年4月 変更

## (4) 取組の期間

2030年4月まで

### 3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

#### (1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- ⊙計画通り実施できている
- ・一部、計画通り実施できていない
- ・ほとんど計画通り実施できていない

#### (2) 実施状況に関する特記事項

#### (3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- ⊙実施している
- ・実施していない

#### <特記事項>

#### (1) 第1学年児童による評価

① 外国語活動の時間は、楽しいですか。			
楽しい	どちらかという 楽しい	どちらかという 楽しくない	楽しくない
100%	0%	0%	0%

② ALT と英語ではなしたりかつどうしたりするのはたのしいですか。			
楽しい	どちらかという 楽しい	どちらかという 楽しくない	楽しくない
100%	0%	0%	0%

③ 英語を話せるようになりたいですか。			
話せるようになり たい	どちらかという 話せるようになり たい	どちらかという 話せるようになら なくてもよい	話せなくてもよい
88.9%	11.1%	0%	0%

④ 外国のことをもっと知りたいですか。			
知りたい	どちらかという 知りたい	あまり知りたくな い	知らなくてよい
77.8%	22.2%	0%	0%

(2) 第2学年児童による評価

① 外国語活動の時間は、楽しいですか。			
楽しい	どちらかという 楽しい	どちらかという 楽しくない	楽しくない
83.3%	16.7%	0%	0%

② ALTと英語ではなしたりかつどうしたりするのはたのしいですか。			
楽しい	どちらかという 楽しい	どちらかという 楽しくない	楽しくない
100%	0%	0%	0%

③ 英語を話せるようになりたいですか。			
話せるようになり たい	どちらかという 話せるようになり たい	どちらかという 話せるようになら なくてもよい	話せなくてもよい
83.3%	0%	16.7%	0%

④ 外国のことをもっと知りたいですか。			
知りたい	どちらかという 知りたい	あまり知りたくな い	知らなくてよい
83.3%	16.7%	0%	0%

(3) 教職員による評価

① 第1学年からの外国語活動の実施は、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成につながっていると思いますか。			
思う	どちらかという 思う	どちらかという 思わない	思わない
91%	9%	0%	0%

② 第1学年からの外国語活動の実施は、英語に慣れ親しむことにつながっていると思いますか。			
思う	どちらかという 思う	どちらかという 思わない	思わない
82%	18%	0%	0%

③ 第1学年からの外国語活動の実施によって、外国の文化(生活, 習慣, 行事等)に対する興味・関心が高まっていると思いますか。			
思う	どちらかというと思う	どちらかというと思わない	思わない
82%	18%	0%	0%

④ 第1学年及び第2学年からの外国語活動に期待することは何ですか。 (自由記述)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国語を楽しみつつ, 語彙や, 発音が定着すること</li> <li>・外国語への抵抗感を減らすこととコミュニケーション能力の向上</li> </ul>	

(4) 保護者による評価

① 第1学年からの外国語活動の実施は, 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成につながっていると思いますか。			
思う	どちらかというと思う	どちらかというと思わない	思わない
88.2%	11.8%	0%	0%

② 第1学年からの外国語活動の実施は, 英語に慣れ親しむことにつながっていると思いますか。			
思う	どちらかというと思う	どちらかというと思わない	思わない
94.1%	5.9%	0%	0%

③ 第1学年からの外国語活動の実施によって, 外国の文化(生活, 習慣, 行事等)に対する興味・関心が高まっていると思いますか。			
思う	どちらかというと思う	どちらかというと思わない	思わない
70.6%	17.6%	11.8%	0%

④ 第1学年及び第2学年からの外国語活動に期待することは何ですか。 (自由記述)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国語も大事だが, 日本人なので日本語も日本の文化, 歴史なども大切にしよう,</li> <li>・もっと勉強しようという気持ちになってほしい。</li> </ul>	

- ・日常で使うちょっとした会話ができるようになって欲しい。外国と日本の違いなどをもっとお話して欲しい。
- ・英語に苦手意識をもたないような外国語活動を期待します
- ・国際化の現代において外国語に触れる事は良い事だと思う。
- ・英語が身に付く。
- ・外国の文化に触れる。
- ・小さいうちから英語の発音を聴き慣れていた方が将来的に役立つと思います。私達の小さい頃も、今のような教育があったら良かったのに…と思いました。私達の時代は文法から入り、発音をすることが恥ずかしいという年齢からの始まりでした。上の子(3年)は現在英会話スクールにも通っているのですが、外国人の先生から発音を学び、堂々と人前でのスピーチまで行う姿は、心から羨ましいです。ぜひ、小さい頃からたくさん英語に触れ、慣れ親しんで欲しい。そう思います。

#### 4. 実施の効果及び課題

##### (1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している学校の教育目標との関係

- ・ゲームや歌を通して楽しみながら、語彙が増えている。
- ・新しい文化や表現に親しみ、外国の文化に興味をもって活動している。
- ・外国語への抵抗がある児童への対応が課題となっている。

##### (2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

- ・既習の表現を即興的に活用することが難しい。即興性が身に付かず、話の継続が難しい。
- ・やりとりの場面で、リアクションの仕方に困っている様子が多く見られた。
- ・間違えることへの恥ずかしさを感じてしまっている児童が見られた。
- ・パフォーマンステストでは、黙ってしまうことや日本語、ジェスチャーが多くなっている。
- ・6年生が受検したGTEC Juniorでは、昨年度と比べて全体のジュニアグレードが同じだったものの、「書くこと」と「読むこと」のスコアが下回った。一方、「話す力」のスコアにおいては、グレードが3から4に上がった。

#### 5. 課題の改善のための取組の方向性

- ・個別に言語活動を行う場面を多く取り入れ、興味のある外国の文化について学習に活用する機会をつくる。
- ・Picture Dictionaryを活用して、既習表現を繰り返し活用する機会を多くする。
- ・「Small talk」の活動で日常的に、既習表現を用いる時間の提供、確保をする。
- ・リアクションの表現を紹介して、やり取りで活用できるようにする。
- ・第二言語習得の際に必要な、話を継続するためのテクニックを継続的に指導する。

- ・言語活動を行う「目的・場面・状況」を十分に説明して活動に入るようにする。
- ・パフォーマンステストにおけるルーブリック表を評価のためだけでなく、支援するための手立てとして用いる。C評価の児童が「どうすれば」B評価になるのか、B評価の児童が「何ができるようになる」とA評価になるのか、支援するために用いる。
- ・「聞く」活動前に「置かれた状況」や「必要な情報」を把握させるなど、プレリスニングに取り組ませていく。